

支援から交流、そして継承へ

みえ災害ボランティア支援センター長 挨拶

2011年3月11日。あの日から私達の社会や生活は一変し、はや3年が経とうとしています。

被災された方々に少しでも元気を届けようと運営してきたみえ災害ボランティア支援センターも、一つの区切りを迎える事となりました。

まずは、無事閉所を迎えるまで支えて頂いたみなさんに心から感謝を述べたいと思います。

支援センターの取り組みは、お一人おひとりの善意が付託された支援金と、多くの方の血税である三重県の県費によって実現しました。三重県費とはつまり、全ての三重県民のみなさんに支えられた活動であったということです。予算を編成して頂いた三重県、その予算を承認頂いた三重県議会のみなさま、そして三重県民のみなさまの応援を受けてこの活動が取り組めたことを心から誇りに思っています。

そして、支援センターの事業にみえボラ（山田町に行くボランティア）として、また事務局ボラ（事務作業を手伝うボランティア）として参加していただいた多くの方のおかげでこの取り組みを行うことができました。支援センターは、ボランティアのみなさんの想いを現地に届けるお手伝いできていたでしょうか。みなさんと共に汗を流したスタッフの力で、きっと届けることができたと信じています。

更に忘れてはならないのが、私たちが伺わせて頂いた山田町のみなさんの優しさです。オレンジのビブスを着て山田町を歩くと、あちらこちらで「ありがとう」「お疲れさま」と声を掛けられました。ボランティア活動は、支援する側と受け入れる側、その両方があるはじめて成り立ち、その関係は一方的なものではなく「お互い様」の関係なのだ改めて気づかされました。この「お互い様」の気持ちは、三重県内に避難されているみなさんとの交流の中でも感じました。

復興は、被災された方々一人ひとりの力によって成し遂げられます。私達ボランティアはその過程を応援し、寄り添い、共に笑い、時には泣き、被災された方々がご自身の足で前に進むのを見守って行くことしかできません。そんな微力な取り組みでしたが、山田町のみなさんに、そして三重に避難している方々に、少しでも勇気をもたらすことができていると、と心より願っています。

未曾有の災害であった東日本大震災から復興するまで、まだまだ時間がかかるのは間違いありません。そんな状況であるにも関わらず支援センターを閉所する事について、あたかも野球の試合で3回裏なのに帰ってしまう応援団の様なもので、とても心苦しく、申し訳ない気持ちです。

「東日本大震災支援」を看板に掲げた支援センターはこれで閉所となりますが、支援センターの幹事団体はそれぞれに今後も事業の一部を引き継いで取り組み続けていきます。そして支援センターに関わってくれた全ての方々は、きっとそれぞれの方法で東北の方々や三重に避難されてきたみなさんに関わり続けてくれると信じています。それは「お互い様」の「支援」から更に一歩前に踏み出した「交流」となり、更にこれからは教訓の「継承」へと繋がっていくのだと思います。

東日本大震災で亡くなった全ての方の命の声と、今も復興に汗流す東北のみなさんの経験した重い教訓を一つずつ丁寧に学び、三重の私達の防災に「継承」していくこと。三重の私たちにできる「忘れない」取り組みが今から始まるのです。

平成 25 年 12 月

みえ災害ボランティア支援センター長
山本康史





活動報告書

編集・発行：みえ災害ボランティア支援センター

発行日：平成 25 年 12 月 11 日

発災直後写真提供：佐藤辰也

写真提供：先遣隊、ボランティアの皆さん、黒澤克行さん

※本書掲載写真・記事の無断転載を禁じます。

当センターは平成 25 年 12 月 28 日をもって閉所します。
この刊行物に対するお問い合わせは、下記までお願いします。

三重県環境生活部男女共同参画・NPO 課 NPO 班
〒514-0009

三重県津市羽所町 700 番地アスト津 3 階

TEL：059-222-5984

E-MAIL：seiknpo@pref.mie.jp